

**黒斑病・葉枯病の発生圃場率が高くなっています。**

**黄色斑紋病斑を抑制するため9月下旬～10月上旬の防除を徹底しましょう。**

### 現在の状況

- 1 黒斑病・葉枯病は、9月下旬の巡回調査で発生圃場率が100.0%（平年80.9%）に達した（図1）。
- 2 また、葉枯病による黄色斑紋病斑の発生も確認されている（図2）。
- 3 向こう1か月（9/19～10/18）の気温は高く、降水量は平年並か多い予報であり、葉枯病の発生に好適な条件が続くと考えられる。

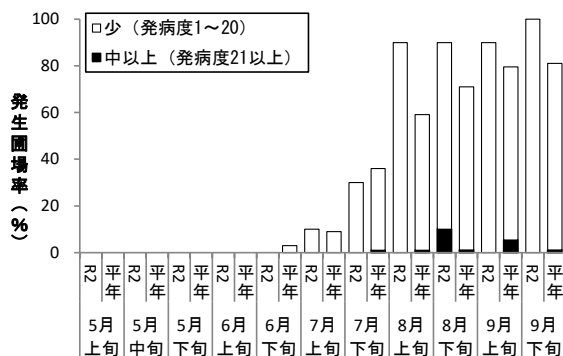


図1 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の時期別推移



図2 葉枯病の病斑  
（左：褐色斑点病斑、右：黄色斑紋病斑）

### 防除対策

- 1 葉枯病による黄色斑紋病斑は、出荷部位に発生し、品質低下の原因となるため、9月下旬から10月上旬までの防除を徹底する。
- 2 今後発生するさび病の防除を兼ねて、テーク水和剤やダコニール1000、アミスター20フロアブルなどを選択する。
- 3 散布ムラが生じないよう畝の両側から十分量を丁寧に散布する。
- 4 なお、薬剤を選択する際は、収穫前日数及び使用回数に十分留意するとともに、QoI剤は耐性菌の発生リスクが高いため、年2回以内の使用に留める。

#### 【利用上の注意】

- ・本資料は、令和2年9月14日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。
- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

<https://i-agri.net/Index/gate003> からご覧いただけます。